

2024年03月13日

疫学研究とは、病気にかかることの頻度や病気の多さを調べて、その原因を明らかにする研究です。私たちは過去のカルテより得られた情報を利用して、現在まで行われた病気の診断・治療の評価を行い、より良い診断・治療法を確立し患者さんに還元できるように、下記の疫学研究を行っています。

下記の疫学研究は、兵庫県立尼崎総合医療センター倫理委員会の承認を得た後、研究責任者の管轄のもとに行われます。当院にすでに記録されている臨床情報をもとに行われるため、対象となる患者さんに新たにご負担をおかけすることはありません。

また、この研究の結果は専門の学会や学術雑誌に発表されることがありますが、対象者のプライバシーは十分に尊重され、個人に関する情報(氏名など)が外部に公表されることは一切ありません。

もし、下記の疫学研究にご自身の臨床情報を使用されることに同意されない方は、下記連絡先にご連絡くだされば、解析対象から除外させていただきます。同意されない場合でも、診療上であなたが不利益を被ることは一切ありません。また下記研究に関して、ご不明な点がございましたら、いつでも下記連絡先にお問い合わせください。

<概要>

研究課題名	脆弱性椎体骨折に伴う腰部脊柱管狭窄症に対する expandable PLIF の有用性の検討
対 象	2015年4月から2022年7月に兵庫県立尼崎総合医療センターにて、脆弱性椎体骨折後の腰部脊柱管狭窄症に対して expandable PLIF cage を使用した手術をされた患者さん。
研究期間	承認日から2029年3月31日までを予定しています。
研究目的	脆弱性椎体骨折（骨粗鬆症性椎体骨折）に伴う腰部脊柱管狭窄症は稀な状況ですが、椎体骨折患者の増加に伴い、年々増加傾向です。骨質不良なこともあり、手術成績が一般的な腰部脊柱管狭窄症の患者さんより劣る傾向にあります。骨折椎体が変形していることもあり、手術方法の選択にも難渋することが多いです。定まった術式は依然ありません。しかし当院では変形した椎体形状に適応できる expandable PLIF cage を使用しております。本研究の目的は expandable PLIF cage を使用した際の術後成績や術後合併症の有無などを評価することです。
利用又は提供を開始する予定日	承認日以降に試料・情報の利用・提供を開始します。
方 法	診療記録より臨床情報を収集します。収集する臨床情報には、年齢、性別、BMI、既往歴、画像所見（手術前後の画像を使用）、手術情報（出血量、手術時間、手術範囲、周術期合併症の有無）などがあります。研究結果は学会および論文にて公表します。
個人情報	臨床情報は匿名化され、個人が特定できないようにして、必要な臨床データのみを収集して解析を行います。そのため、本研究に協力していただく患者さんに不利益が生じることはないと考えています。しかし、そうであっても臨床情報を本研究のために使用されたくない方は、ご連絡いただければ解析

対象から除外します。

問い合わせ先 兵庫県立尼崎総合医療センター 整形外科
〒660-8550 兵庫県尼崎市東難波町 2-17-77
TEL： 06-6480-7000 FAX： 06-6480-7001
研究責任者：フェロー 田中敦